

## オンライン関係人口の地域との関わりの段階性 Stage of Involvement of Online Related Population with Community

○杉本 修晟\* 坂田 寧代\*\*  
SUGIMOTO Shusei SAKATA Yasuyo

### 1. 研究の背景と目的

農山漁村では著しい人口減少と少子高齢化の進行により、持続可能な地域運営を実現するうえで担い手不足の対策を迫られている。他方、都市圏の人々が地方移住を志す「田園回帰」の現象が注目された。しかし、筒井ら<sup>1)</sup>は移住者に“数”的役割を過度に期待する実態を指摘し、外部人材の関与が誘発する「ネオ内発的発展」に代表される“質”的役割の可能性を示唆した。また、地域との関係には多様性が認められ、オンラインコミュニティに端を発した事例が全国各地で芽生えている。オンライン関係人口に関する研究は蓄積が少なく、主体的な地域への関与の構造や既存の地域コミュニティへの影響を紐解く研究は少ない。

本研究は、地域づくりにオンライン関係人口が積極的に関与している事例をもとに、オンライン関係人口の質的役割や地域との関わりにおける段階性を明らかにすることを目的とする。聞き取りおよび参与観察は、2024年4月～12月に予備調査を含め計12回実施した。また、デジタル村民の間で交わされるデジタル上(Discord上)のやりとりを参考にした。

### 2. 仮想住民票を用いたオンラインコミュニティの誕生と発達過程

山古志住民会議は2004年新潟県中越地震以降、住民主体の地域づくり団体として地域の課題解決に取り組んできた。「つなごう山古志の心」を理念に据えて基本構想と行動計画を策定するなど、復興における役割は概ね果たされた。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行を機に地域内外・世代間のつながりが希薄化した。困難となった地域に根付く精神の継承を実現すべくオンライン関係人口創出の取り組みとして、オンライン関係人口創出事業「Nishikigoi NFTプロジェクト」(以下、「NFTプロジェクト」という)が2021年に始動した。

地域住民のコミュニティとデジタル村民のコミュニティの相対的位置付けは、設立者の方針転換と運営主体の交代により変化してきた。コミュニティの活動形態の観点から、方針転換と運営組織の発足を基準とし、発達過程を3つに区分した(表-1)。

### 3. デジタル村民の地域との関わりの段階性

山古志地区にデジタル村民が定着した要因には4つの段階性が確認でき、小田切<sup>2)</sup>の示した関係人口における関わりの階段の模式図を参考にその段階を整理した(図-1)。順に、①NFTの購入、②オンライン上の交流、③頻繁な訪問、④地域づくりへの参画の段階をたどる。とくに、DAO(分散型自律組織)の導入によって構築されたオンラインコミュニティが、NFTプロジェクトの発展における下地づくりに大き

表-1 NFTプロジェクトの発達過程

Developmental process of NFT project

発達段階	期間	運営主体
黎明期	2021年12月～2022年12月	山古志住民会議・企業
転換期	2022年12月～2024年2月	運営DAO準備会
過渡期	2024年2月～2025年1月	世話人DAO

\*新潟大学大学院自然科学研究科 Graduate School of Science and Technology, Niigata University,

\*\*新潟大学自然科学系 Institute of Science and Technology, Niigata University

キーワード: デジタル村民, コミュニティ, 中山間地域

な影響を与えた。また、発達段階に応じて地域団体と企業、自治体の3者が各自の達成目標の見直しと共有を行ったことにより、その後の個々の発展の自由度を確保したと考えられる。

仮想住民票を発行する多くの地域では、仮想住民票に経済的な特典を付与することで購入を促し、関係人口の創出・確保を図っている。一方、Nishikigoi NFT は、投資商品としての性質を持ち合わせているものの、特定の割引券や利用券などの経済的な特典は設定されておらず、非経済的な特典がデジタル村民の活動動機を刺激していると考えられる。

現地への訪問回数が多く交流深度の高いデジタル村民は自身らの活動を「推（お）し活」、コミュニティを「ファンクラブ」と称している。また、地域住民はデジタル村民を「山古志の応援団」と認識していることから、両者の評価が一致している。転換期の関係深度の高いデジタル村民によって構成される運営 DAO 準備会の場においては、新たな活動の指針は復興計画書に記述された「つなごう山古志の心」に共感して定められている。デジタル村民の地域住民に対する敬意がうかがえる。

交流初期は、文化や歴史、産業といった地域資源が関係人口の心理を刺激し現地訪問を増加させた。オンライン上にコミュニティの基盤がある場合であっても、現地訪問を重ねる過程で地域住民との交流機会が増加し、デジタル村民の活動動機は地域住民らの考え方や生き方

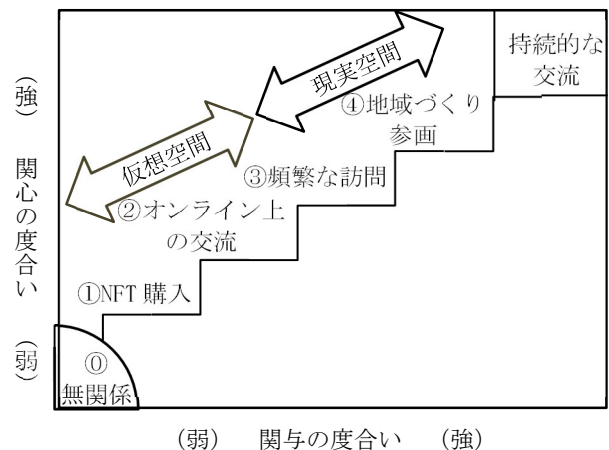
からくみ取れる精神への憧憬に遷移していったと考えられる。とくに、山古志地区の小中学校の運動会への参画や、「牛の角突きファンクラブ」を結成しての「牛の角突き」への参画（写真-1）など、地域行事への参画を通じた地域コミュニティとの連携が確認された。

デジタル村民が交流の過程で体験する地域住民の些細な言動が、精神性の理解を促していると考えられる。精神性は特定の要素に限定できないが、山古志住民から感じ取れる精神性は「牛の角突き」に代表される伝統文化への矜持と時代に応じた柔軟性、自然環境で培われる忍耐力が挙げられる。

**謝辞** 山古志地区の住民ならびにデジタル村民の関係各位に大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。なお、本研究の一部は、JSPS 科研費 JP24K09123 の研究助成を受けた。

#### 引用文献

- 1) 筒井一伸, 佐久間康富, 嵩 和雄 (2016) : 移住者と農山村の地域づくりー田園回帰における位置づけー, 地理科学 71 (3) , pp.156-165.
- 2) 小田切徳美 (2021) : 農村政策の変貌ーその軌跡と新たな構想ー, 農山漁村文化協会, p.290.



注) 小田切<sup>2)</sup>を参考に作成。

図-1 デジタル村民における関わりの階段の模式図  
Schematic diagram of stairs of involvement in digital villagers



写真-1 角突きファンクラブのぼり旗  
(2024年11月3日撮影)  
Bullfight fan club banner